

★学校の教育目標	◎自ら考え学ぶ子 ○健康でたくましい子 ○思いやりのある子 ○めあてをもってやりぬく子	★重点計画の概要
★目指す学校像		●プロジェクト名:児童の「わかった!できた!」がいっぱいプロジェクト ●プロジェクトの設定理由:児童が授業で「分かった!できた!」という経験を積み重ね、新しいことを学ぶ楽しさを味わってほしい。文章を読み解く力を高めることで、学習内容の確実な定着を図りたい。 ●内容:①「文章を読み解く力」を高める授業の実践 ②記憶・言語・推論等の認知機能を高める活動の実施 ③「南平小スタンダード」を活用し、問題解決型の授業スタイルを実践 ④朝学習の時間を活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る ⑤OJTを実施し、教師の指導力向上を図る
【目指す児童像】	○学び合いで思考を深め、安心して表現する児童 ○互いの良さを認め合い、協働して学びを深める児童 ○目標の達成に向けて行動し、最後までやり抜く児童	
【目指す学校像】	○児童が居場所があると感じ、活躍できる学校 ○地域が児童の成長を見守り、学びを支える学校 ○教職員が目指す学校像の実現に向けて挑戦し続ける学校	
【目指す教師像】	○高い指導力と優れた人権感覚をもつ教師 ○高いコミュニケーション能力をもつ教師 ○組織を生かして課題を追究する教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童が主体的に学習することで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する。	●文章を正しく読み解く力の向上を図り、分かったことを図や表、式等に表す。 ●記憶・言語理解・推論等の認知機能を高める活動を行い、読解力の素地を養う。	●校内研究会を活用し、「読み解く力」の向上を図る。年間4回の研究授業を行い、効果的な指導方法について学びを深める。 ●毎週1回朝学習の時間に、コグニティブトレーニングを実施し、認知機能の向上を図り、読解力の素地を養う。 ●毎週3回の朝学習の時間を活用し、読み、書き、計算等の基礎的な学習内容の定着を図る。	4	4 読解力の向上により、児童が学ぶ楽しさを味わう授業を行う教師の割合90%以上 3 読解力の向上により、児童が学ぶ楽しさを味わう授業を行う教師の割合80%以上 2 読解力の向上により、児童が学ぶ楽しさを味わう授業を行う教師の割合70%以上 1 読解力の向上により、児童が学ぶ楽しさを味わう授業を行う教師の割合70%未満	3	4 文章を正しく理解することで、学ぶことが楽しいと感じる児童の割合90%以上 3 文章を正しく理解することで、学ぶことが楽しいと感じる児童の割合80%以上 2 文章を正しく理解することで、学ぶことが楽しいと感じる児童の割合70%以上 1 文章を正しく理解することで、学ぶことが楽しいと感じる児童の割合70%未満	・学力向上委員会を新たに設置し、教員が指導方法を学ぶことで、子供達に学ぶ楽しさを実感させていることは学力向上につながる。 ・「文章を正しく読み解く力」は、どの教科にも必要な力である。コグニティブトレーニングにも継続的に取り組んでもらいたい。 ・「わかった!できた!がいっぱいプロジェクト」の定着が図られ、子供達がキラキラした目で、学ぶ喜びを感じているのが伝わってくる。 ・朝学習での認知機能トレーニングや基礎的な学習は学習内容の定着につながる。継続することで、目標達成に近づいていくと感じる。	・学力向上に関する項目では、児童アンケート・保護者アンケート共に肯定的評価がおおむね90%となった。問題解決型の授業スタイルの実施により、子供達が「分かった」と感じられる授業を行うことができた。また、学力向上委員会を設置し、教員の指導法を改善を図ることができた。また、朝学習の時間を活用した読み・書き・計算など基礎的・基本的な学力向上の取組や、認知機能トレーニングの取組を継続することができた。
	児童の課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	●課題を解決するために、既習事項を活用し、自力で解決しようとする力を育む。 ●学習したことや体験したことなどを整理し、他者に発信したり、自分と他者の類似点、相違点が確認できるように学習活動を行う。	●問題解決型の授業を基調とし、本時の学習課題を把握した後は、既習事項を活用して自分自身で課題解決に向けて考える活動を取り入れる。 ●「南平小スタンダード」を活用し、授業の各過程で重視する指導事項を明確にする。また、授業のUD化を行い、全ての児童が学習内容を定着できるように支援する。 ●学び合いの時間に、自身の考えを発表したり、相手の考えを聞いたり、教師が「どの考えが優れているか」という発問を行ったりして、児童の学びを深める。	4	4 問題解決型の授業を実施し、児童の学びを深める授業を行う教師の割合90%以上 3 問題解決型の授業を実施し、児童の学びを深める授業を行う教師の割合80%以上 2 問題解決型の授業を実施し、児童の学びを深める授業を行う教師の割合70%以上 1 問題解決型の授業を実施し、児童の学びを深める授業を行う教師の割合70%未満	3	4 自力解決や学び合いで考えを深めることができたと感じる児童の割合90%以上 3 自力解決や学び合いで考えを深めることができたと感じる児童の割合80%以上 2 自力解決や学び合いで考えを深めることができたと感じる児童の割合70%以上 1 自力解決や学び合いで考えを深めることができたと感じる児童の割合70%未満	・新たな授業の流れを取り入れたことは評価できる。子供達は、解き方の糸口をつかんだり、考え方の筋道が見えたりすると、1人で解けるようになる。また、解き方を友達に説明することで定着を高めることができる。 ・学習したことや体験したことを整理し、考えたことを発表し合うことを通じて、類似点や相違点に気づき、もっと話したい、もっと知りたいという気持ちになっていく。教師は児童の発表を聞き、良いところを見出し、皆の前でたくさん褒めてほしい。それが子供達の自信に繋がる。	・児童アンケートの「授業が分かりやすい」の項目では、肯定的評価が約90%であった。授業では南平小スタンダードを活用し、授業のポイントを押さえた指導を行うことができた。また、新たな授業の流れを取り入れた授業展開を研究し、より多くの児童が学習内容を定着できるようにする。
みんなの多様な学びとあわせをつくる	児童の自己肯定感を醸成し、児童が様々なことに自信をもって取り組めるようにする。	●教師が「分かりやすい授業を行うことで、児童が「分かった」という経験を積み重ね、自分に自信をもつ。 ●各教科・領域等において、一人一人の児童が互いを尊重し、大切にされる活動を位置付ける。	●校内研究で「文章を読み解く力の向上」に取り組み、様々な教科で、児童が「分かった。できた。」を実感することで自己肯定感を高める。 ●委員会・クラブ・係活動等、児童が自身の役割を果たし、学校や友達役にたつたと認識することで自己肯定感を高めたり、周りの人の役に立つ心地よさを味わったりする。 ●たてわり活動等、上学年が下学年の手下となったり、世話をしたりする機会を設け、学年による役割意識を高めさせる。	3	4 分かりやすい授業を行い、児童の自己肯定感向上を図る教師の割合90%以上 3 分かりやすい授業を行い、児童の自己肯定感向上を図る教師の割合80%以上 2 分かりやすい授業を行い、児童の自己肯定感向上を図る教師の割合70%以上 1 分かりやすい授業を行い、児童の自己肯定感向上を図る教師の割合70%未満	3	4 学習を理解したり、活躍したりすることで自信が付いたと感じる児童の割合90%以上 3 学習を理解したり、活躍したりすることで自信が付いたと感じる児童の割合80%以上 2 学習を理解したり、活躍したりすることで自信が付いたと感じる児童の割合70%以上 1 学習を理解したり、活躍したりすることで自信が付いたと感じる児童の割合70%未満	・たてわり活動による異学年交流、上学年が下学年のお世話をすることは、今後、社会生活を送る上で大切な力になっていくと考える。 ・「文章を読み解く力の向上」に取り組むことで、様々な教科でも「分かった・できた」が実感できる。それが自信に繋がり、いろいろな場面で積極的に発言し、行動できるようになると思う。 ・新たに取組んでいる授業の流れについて、子供達は教師の詳しい解き方の説明を受けることで、一人で解けるようになっていくと思う。	・たてわり活動を全校で行うことで、高学年のリーダーシップを育成し、下学年のお手本としての自覚を促すことができた。 ・「文章を読み解く力」を、すべての学習の基礎として位置付け、意識して授業に取組むことができた。これを継続し、「わかった・できた」が実感でき、自信に繋がるようにしていく。
	自他ともに命を大切にし、互いに尊重し合える豊かな心の育成を図る。	●学校ははじめを絶対に許さないことを伝え、児童のいじめはしないという心情を育てる。いじめの未然防止、早期発見、未解決に努める。 ●授業に対話や学びを深める場面を設定し、児童が相手の考えを受け入れたり、友達の良さを発見したりする力を高める。	●全校朝会や道徳の授業で、いじめは絶対に許さないことを伝える。学期に1回のいじめアンケート、毎週2回の生活夕会等を通して、いじめの未然防止、早期発見に努める。また、いじめの疑いがある場合は、速やかに組織的に対応を行う。 ●生活の決まり「南平小セブルール」の定着を目指し、全校朝会等で代表委員会児童から全校に周知する機会を設ける。 ●国語、道徳など、心情に触れる教材の学習場面において、登場人物の気持ちを想像し他者と交流し多様な考えに触れる学習機会を設定する。	4	4 自分や周りの人を大切に思う気持ちを高める授業を行う教師の割合90%以上 3 自分や周りの人を大切に思う気持ちを高める授業を行う教師の割合80%以上 2 自分や周りの人を大切に思う気持ちを高める授業を行う教師の割合70%以上 1 自分や周りの人を大切に思う気持ちを高める授業を行う教師の割合70%未満	3	4 自分や周りの人のことを大切に思っている児童の割合90%以上 3 自分や周りの人のことを大切に思っている児童の割合80%以上 2 自分や周りの人のことを大切に思っている児童の割合70%以上 1 自分や周りの人のことを大切に思っている児童の割合70%未満	・いじめや喧嘩が起きた際には、教師は双方の話を丁寧に聞いて指導してほしい。 ・不登校傾向にある子供達は、大きな問題がなくても、ある日突然登校できなくなることもある。そのためにも、校内別室支援教室が設置されていることは意義がある。 ・高学年になるとSNS等でのすれ違いが増えてくる。SC等を活用し組織的に対応することが望ましい。 ・友達の変化に気付いた時には、自然と声を掛け合える友達関係を築いてほしい。教師にも相談できる関係が大切である。	・道徳の授業を中心に、登場人物の心情を考えたり、友達の意見を聞いたりして、多様な考え方を受け入れることに取組んでいる。思いやりの気持ちを育み、いじめを許さない指導に引き続き取り組む。 ・学校生活における様々な不安に対応するため、スクールカウンセラーや登校支援室、保健室など、多くの相談体制を整えている。 ・あいさつ運動やセブルール集会、正しい廊下歩行に関する標語作り等を通して、決まりを守って生活する力が高まってきている。
社会と未来に開き、みんなで作る	地域の自然や人材とのかかわりを通して、ふるさと日野を誇りに思う気持ちを醸成する。	●南平小の自然や産業に関する営みに触れ、体験的に学べる学習活動を計画的に実施する。 ●日本の伝統的な文化や地域の文化に触れ、それらのよさを体験的に学べる学習活動を行う。	●学校農園「すすかけ広場」での米作り、しきなみ短歌作り、空手教室、菊教室等、地域の方をゲストティーチャーに迎え、日本の文化、南平小の自然を体験できる学習を行う。 ●地域に関して学習したことを、他者に発信する機会を設け、児童と地域人材が豊かにかかわれるようにする。 ●近隣の幼稚園、保育園、中学校等と連携して学習を行うことで、児童が様々な人とかかわり合って生活していることを実感できるようにする。	4	4 地域に関する体験活動を実施し、郷土愛を育む授業を行う教師の割合90%以上 3 地域に関する体験活動を実施し、郷土愛を育む授業を行う教師の割合80%以上 2 地域に関する体験活動を実施し、郷土愛を育む授業を行う教師の割合70%以上 1 地域に関する体験活動を実施し、郷土愛を育む授業を行う教師の割合70%未満	4	4 地域に関する体験学習を通して、ふるさと日野を大切に思う児童の割合90%以上 3 地域に関する体験学習を通して、ふるさと日野を大切に思う児童の割合80%以上 2 地域に関する体験学習を通して、ふるさと日野を大切に思う児童の割合70%以上 1 地域に関する体験学習を通して、ふるさと日野を大切に思う児童の割合70%未満	・自然体験や文化を学ぶことは非常に大切であると考え、南平小の米作りは、今後も忘れられない体験になると思う。 ・地域の方々を講師に招いて、いろいろな体験活動を取り入れていることは評価できる。様々な体験活動が各学年に設定されていると、子供達も「〇年生になったら〇〇ができる」といった楽しみがあり、体験活動に積極的にになると考える。 ・多くの地域・保護者が授業に関わることで、学校での様子を知ることができ、当事者意識をもって教育活動に関われるようになる。	・4年生の稲作をはじめ、低学年の浅川観察など、地域の方の協力を得て多くの体験活動を実施することができた。また、プロの縄跳びパフォーマンスや持久走指導者を招聘した授業を実施し、専門性の高い外部指導者から直接学ぶ機会を得た。 ・保育園との交流を3学期に行っている。これにより新1年生が安心して入学できる環境を整えるとともに、現1年生の自立心を促す取組みとなっている。
	学校と地域が協働する仕組みを作るとともに、地域と連携し、よりよい学校を構築する。	●地域協力者や各団体と連携した学校運営体制を構築する。 ●教員の力を最大限に発揮できる環境を整え、児童や地域に貢献できる人材を育成する。	●学校運営連絡協議会、民生・児童委員、学校コーディネーター等様々な機関と情報共有を図り、多様な当事者が学習活動に関わり、学校と共に児童の健全育成を推進する。 ●校長の方針のもと、教員の特長を生かした校内人材配置を行い、組織的・効率的な学校運営を図ることで時間や業務の圧縮と負担軽減を図り、教員の力が最大限に発揮できる体制を構築する。	4	4 地域とのつながりを大切にし、地域と共に児童を育成する教師の割合90%以上 3 地域とのつながりを大切にし、地域と共に児童を育成する教師の割合80%以上 2 地域とのつながりを大切にし、地域と共に児童を育成する教師の割合70%以上 1 地域とのつながりを大切にし、地域と共に児童を育成する教師の割合70%未満	3	4 地域と共に活動し、学んだことを活かして成長し続ける児童の割合90%以上 3 地域と共に活動し、学んだことを活かして成長し続ける児童の割合80%以上 2 地域と共に活動し、学んだことを活かして成長し続ける児童の割合70%以上 1 地域と共に活動し、学んだことを活かして成長し続ける児童の割合70%未満	・様々な行事に地域の方を招待していただいている。今後も南平小の行事に多くの方が参加できるよう呼びかけていきたい。 ・クリーン作戦や花壇整備など、地域の方々も協力しやすい取組を年に何回かは行うとよい。 ・来年度、コミュニティースクールを発足することを考慮し、地域との連携は非常に重要だと考える。皆が忙しい時代だからこそ、学校と地域とのつながりを大切にしたい。 ・地域との関わりは、年齢を超えた出会いがあり、良好な人間関係や地域への愛着心を育むことにつながると思う。	・昨年度開催した50周年記念事業により、地域の皆様とのつながりを広げることができた。クリーン作戦や花壇整備など、そのつながりを生かした地域との協働活動を企画する。 ・学校の教育力を高める取組の一環として、働き方改革をより一層進める。業務の効率化と精選を図り、捻出した時間を児童と関わる時間に使えるようにする。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。